



つどいの樹

第10号

～ 学ぶ会だより～

2022年12月1日発行



朝鮮人参と近代産業

八代将軍吉宗が砂糖の国産化を図った経緯は教科書にありますが、同様に国産化を急いだ朝鮮人参について調べてみると、日光市と、隣接する鹿沼市がその生産の中心地でした。幕府はここで育てた朝鮮人参の苗や種を各地に配り、栽培を奨励したのです。ただし下野国の朝鮮人参は御用作として幕府が生産・流通を統制しました。

1872(明治 5)年、御用作は撤廃されます。すると鹿沼のある村の名主だった鈴木要三は、安田善次郎と協同し、朝鮮人参を横浜から中国に輸出して莫大な利益を得ました。それを原資としてテイセン(帝国繊維株式会社)の前身の下野麻紡織会社を興したのです。写真はテイセンの西工場として長く使われていた建物です。鹿沼市内産出の深岩石が使われています。(写真・文:小石都志子)



御成敗式目を待望する

山田 麗子（「学ぶ会」副代表）

NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が面白く、巧みな物語の力で鎌倉時代に引き込まれたり、個性的でたくましい女性たちに共感したりしています。

学び舎教科書 p. 62 に記述した上総介(かずさのすけ)広常(ひろつね)も登場しました。平氏軍に大敗した頼朝のもとに広常は大武士団を率いて駆けつけます。頼朝に最高の貢献をした広常がどうなるか生徒に聞くと「土地を保障してもらおう」「幕府の重要な役につく」などの答えが返ってきます。しかし、想像とは違う結末が待っています。ドラマでは、頼朝に騙され謀殺される広常の悲惨な最期を佐藤浩市さんが熱演しました。果てしなく続く内部抗争。頼朝の息子や孫たち、幼児までも殺され、御家人が次々と粛清される展開に「泰時、早く御成敗式目をつくって」という気持ちになりました。

承久の乱を経て 1230 年頃から始まった大飢饉は「天下の人口が3割減った」といわれるほど悲惨なものでした(教科書 p. 67)。大飢饉の最中に御成敗式目はつくられます。疲弊した時代に領地をめぐる紛争は増加したことでしょう。公平性をめざして、式目では裁判の基準を事細かに定めました。また、紛争の元をつくらぬよう誹謗中傷や暴力を禁止し、偽造文書を作った者の所領は没収としました。離縁した妻や妾の土地の権利や、逃亡した百姓の財産などにも配慮しています。

法は社会を映し出す鏡です。御成敗式目からは過酷な世で安定を願う人びとの声が聞こえ、その声は今も血を流し続ける世界に連なり響いてくるようです。

風のいろ 御成敗式目を待望する	山田 麗子・・・2
今・学校で・教室で コロナ禍の文化祭	久木山 咲・・・3
交流の広場 「東京大空襲・戦災資料センター」訪問記	
人間の歴史をともに学ぶ会・・・4	
大学のキャンパスから 絵を描いただけで「思想犯」に	山本 政俊・・・5
歴史の窓 地域に読書会があるということ	大門 正克・・・6
授業づくりの土おこし モノから学ぶ歴史	
⑧黒いダイヤと自動車時代～ゴムプランテーション～	瀬戸口 信一・・・7
ようこそ教科書の舞台裏へ アジア太平洋戦争への思い	
その7 マレー半島に残る日本軍の慰安所	高嶋 道・・・8
学びを深める バトンをつなぐ中学生	
第2回 選挙を経験し責任と希望を語る子どもたち	平井 敦子・・・9
随想 連載⑩ 「最初の質問」	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

コロナ禍の文化祭

久木山 咲（法政大学中学高等学校）

スタートで学級閉鎖

2学期の開始とともに、勤務校では文化祭準備もスタート。私が担任を受け持つ高校1年生のクラスは、「中華風屋台」をテーマにした企画を打ち立て、役割分担を決めて準備に取り掛かった。はじめ、放課後に残って作業する生徒の数はまばらだったが、2日3日と経つにつれ、少しずつ残って作業する生徒も増えてきていた。

さて本番2週間目、これから本腰を入れて取り組むぞ！というタイミングで、それは起こった。……学級閉鎖だった。新型コロナウイルスがクラス内で流行してしまい、5日間、生徒たちは登校できないことになった。思い立って翌日、Zoomを使ってクラスの生徒を集め、「ブレイクアートルーム」を利用し今できることをオンライン上で相談するよう促した。生徒たちはグループごとに企画案を改めて確認し、必要なものは何か、買い出しに行く役割はどうするかなどを話し合い、クラス全体で共有した。私は「今できることはここまでだけど、学級閉鎖が解除されたら、全員で協力して進めていこう」と呼びかけるほかなかった。

閉鎖が明けて…

学級閉鎖が明けた。閉鎖明け初日の当日は、なんと、ほとんど放課後に人は残らなかった。閉鎖明けで、久々に部活に出たい生徒も多かったのだと思う。しかし、学級閉鎖の間に他のクラスはどんどんと準備を進めていっており、見て明らかなほど差がついていた。翌日も、残ったのはわずか数名…。発破をかけるように、クラスに呼びかけた。「今のペースだと、終わらないよ！」。

少しずつ、意欲のある生徒を中心に、放課後に作業を進めるようになった。今思うと、一番焦っていたのは担任の自分だったのかもしれない。自分は文化祭運営の担当でもあり、放課後クラスを覗くことができない日も多かったので、「これは進めたの？あれはやらなくていいの？」と、生徒に度々せつついてしまった。



「自分たちの文化祭」に

いよいよ今週末に文化祭を控えた週初め、かなり作業のペースがあがってきた。そんな中で、たまたま教室を見に行ったとき、クラスの生徒から「〇〇してもいいですか」といったことを度々聞かれた。「しまった」と思った。「自分たちの文化祭なんだから、自分たちで考えて決めていいんだよ！」。色々気にしすぎるあまり、あれこれ口を出してしまった弊害だと思った。自分がそこまで手をかけなくても、生徒たち自身できっと何とかできたのだ。むしろ口出ししたことで意欲を削いでしまっていたのかもしれない。その線引きはどこだっただろう、と自身の言動を振り返って反省した。

全員が急ピッチで準備を進めた文化祭前日。私の知らないところで、生徒たちはもともとの企画原案を上回る創意工夫を凝らしていた。黒板の大きな龍の絵、案内図、お客さんに説明するボード、受付の装飾など…。もともとの1枚の企画書から、全員で考え力を合わせてつくりあげた「作品」となった。学級閉鎖があったクラスとは思えない出来栄であった。

文化祭当日、クラス企画はみごと盛況。生徒投票でも学年で2位であった。「2位になってうれしかった」「〇〇先生が一番面白い企画だったと言ってくれた」「クラスの仲が深まった気がする」。担任として反省も多かったが、生徒にとっては大きな達成感があり、大きな成長につながったようだった。文化祭を終えて出てきた生徒の感想を読んで、学校行事の重要性を改めて認識した。

「東京大空襲・戦災資料センター」訪問記

人間の歴史とともに学ぶ会(千葉県松戸市)

月1回のペースで教科書を読みながら、近現代を学びましたが、延び延びになっていた戦災資料センター見学がやっと実現しました。まず、入館料が300円と知ってびっくり！国立博物館の特別展では2000円を超えるものもあるというのに、何故？と思いましたが、子どもたちをはじめ多くの人に見て欲しいという館の意志だと受け止めました。一夜にして10万人の命が奪われた戦争被害を記録する公共施設がない事は日本の戦争への向き合い方を象徴しています。このセンターの立ち上げと運営に尽力された早乙女さんの遺影に深く頭を垂れました。

(神 惇子)

2007年5月3日「松戸憲法記念日の集い」の講師として早乙女勝元さんをお招きしました。その折りに伺った「戦災資料センター」を、この度初めて訪れました。衝撃でした。

私は1944年11月22日、水戸の生まれです。生後2日目の空襲で防空壕に逃れたそうです。同年代の友人には様々な境遇の方が居られます。私は運良く今日を迎える事ができましたが、特に戦災孤児の方々の悲慘に思いを馳せております。

(青木 和子)

展示を見ながら心に重くのしかかっていたのはロシアによるウクライナ侵攻だった。そしてそれは近代以降日本国家が行ってきた侵略戦争に重なり、やり切れない思いだった。

このようなことが起きないようにするために重要な事の1つは、真実の情報を得るということだろう。そしてたとえ真実の情報であっても、自分の内面で深く考えることが大切だと思っている。

(嶋根 純子)

空襲で逃げまどう人々を想像したら、ウクライナの恐ろしい映像と重なった。ナパーム弾が使われたが、非常に残酷だ。米が研究を重ねて作り、一度火がついたらしつこく焼け続ける。日本の家屋に落と

したら、どうなるのか計算し尽してる。センター内にある体験者のビデオ映像集も圧かん。その後の人生に多大な影響を与えた大空襲。今又戦争の足跡が近づく感じがして不安がつる。

(松戸 志保美)

ガラスケースの赤いおくるみが目を引いた。真新しいおくるみに包まれていただろう幼子の愛くるしい表情が目に浮かぶ。その赤子を胸に抱いて必死に逃げた母親のビデオメッセージを観る。夫も亡くしたその女性は実家にたどり着く。お姑さんは「あんたはよう無事で帰っておいでなされた」と喜んでくれたことがとても嬉しかったと。こんな人たちがたくさんいて慰められた人もいるというのはせめてもの救いだ。

(城石 保子)

夫は小学2年の3学期の時、松戸市根本の金山神社の山の上にある浅間様から3月10日東京下町の方が真っ赤に燃えているのをみたそうです。当時は今の市役所が山であり市街地は高い建物もないので、北千住の方までよく見え夜暗い中でB29が編隊を組み襲来し焼夷弾が落ちるたびに火が広がり恐怖を感じ、高射砲がB29に命中し落ちていくのも見えたそうです。歴史教科書を学ぶ会のメンバーと戦災資料センターに行き東京大空襲の下町の写真や実物大の焼夷弾を実際に見て、改めて戦争の恐ろしさを実感しました。戦争の体験者が高齢になり、語るものがいなくなりつつある今、この資料センターがあることに大きな意義を感じ、未来のある子どもたちが二度と戦争を起こさない学びの場になってほしいと思いました。

(田久保 美紗子)





絵を描いただけで「思想犯」に

山本 政俊（札幌学院大学教授）

学習指導要領から「批判力」が消えた

「社会生活の諸問題を正しく判断する能力を育て、健全な批判力をもってこれらに対処しようとする態度を養う」（高校学習指導要領『社会科』目標・1970年版）というように、かつて学習指導要領には「批判力」という文言がありました。ところが78年版以降「批判力」という言葉が消えました。「人間」という言葉が挿入され、「社会と人間に関する基本的な問題についての理解を深め」「現代社会に対する判断力の基礎と人間の生き方について自ら考える力を養う」「進んで国家・社会の進展に寄与しようとする態度を育てる」に変えられてしまったのです。

授業を通して、社会の矛盾や問題をどう解決するかというアプローチではなく、社会にどう適応するか。人間としての「生き方あり方」の教育が要請され、心がけて何とかしようとする教育が跋扈することになりました。ですから、時の政治や権力に立ち向かい、抗ってきた人々の歴史を意識的に学ぶ必要があります。権利は歴史の中の闘いで勝ち得てきたものであると。

自由な言論・表現を奪った治安維持法

「10万1654人」と板書して問います。「これは何の数字でしょうか」「1925年から1925年から1945年までの20年間で、ある法律で検挙された人数です。何の法律でしょうか」。なかなか学生からは返答がありません。

国体＝天皇制を変革し、私有財産制度を否認する団体の結成や行動を取り締まることを目的として1925年に成立した治安維持法は、「改正」を重ね、最高刑は懲役10年から死刑へ。「結社の目的遂行の為にする行為」一切を禁止する「目的遂行罪」も加わり、自由主義的な研究・言論や、宗教団体の教義・信条さえも「目的遂行」につながるとされて、国民全体が弾圧対象になり、令状なしの捜索や取り調べ中の拷問・虐待が日常的に横行するようになりました。1941年1月から1942年2月にかけて、道内の

教員、学生が治安維持法違反容疑で逮捕されました（北海道生活図画事件）。18人が起訴され、3人が懲役6か月の実刑判決、15人が執行猶予つき有罪判決を受けました。当時旭川師範学校（今の北海道教育大学旭川校）に学び、美術部の学生として絵を描いていた松本五郎さんは、法に触れることは何もしていないのに、突然検挙され、冬マイナス30度になるコンクリートの独房に1年3か月も入れられたのです。松本さんが特高警察に没収された絵の中に『レコードコンサート』があります（<https://news.yahoo.co.jp/feature/741>/参照）。

この絵のどこがいけないかを考え発表します。「何が悪いのか何もわからないのです」この言葉に学生は衝撃を受け、恐ろしさを実感するのです。「何も悪いことをしてなくても逮捕される可能性がある状態、つまりだれもが容疑者にされるような治安維持法。ただ音楽を聞いたり、映画を見ていたり、絵を描いていたり、勉強していたり、YouTubeなどをみたり、何をしても曖昧な理由で逮捕されかねないなんて。そんな時代にならないためにも、過去の出来事としっかり向き合い、私たちの自由が奪われないように一人一人が積極的に政治に参加し、いいものはいい、だめなものはだめと発言していき、過去の悲劇を繰り返さないように努力したい」とはある学生の意見です。

山本宣治の人物調べ

学び舎は「山本宣治の人物調べ」を取り上げています。彼のことを知らない学生もいました。

教科書を読ませ、学生自身にインターネットで人物調べを体験してもらいました。ある学生の感想です。「私はこの人のことは、講義を受ける前は、知りませんでした。しかし私は、今日この人にとっても心を惹かれました。その理由は、勇気を出して治安維持法に反対したことです。結果的に殺されてはしまいましたが、殺されるのは承知の上で私は反対の立場に立ったのだと思います。山本宣治はもっともっと日本で称えられるべき人間であり、中学や高校の教科書で大きく取り上げてもいいのではないかと思います。山本宣治の墓碑の背面に書かれている「山宣孤壘を守る！だが私は寂しくない、背後には多くの大衆が支持しているから」という言葉は私にとっても勇気をくれました」。



地域に読書会があるということ

大門 正克（早稲田大学特任教授）

2022 年 9 月 21 日、久しぶりに岩手県北上市和賀町で開かれている麗ら舎読書会に参加しました。麗ら舎読書会は、1984 年、詩人であり、生活記録を書いている小原麗子さんが農協を退職して和賀町に引っ越しし、自宅が「麗ら舎」と呼ばれて、読書会が開かれたことで始まりました。

2022 年 9 月の麗ら舎読書会

私が久しぶりに読書会に参加したのは、『世界』（2022 年 5 月～7 月）に連載した私の「生きる現場からの憲法」を読書会のテキストにしてくれたからです。連載では、夜間中学校と麗ら舎読書会を、それぞれ生活世界（ローカル）とグローバル、歴史と現在のなかに位置づけ、憲法の理解の更新をめざしました。

読書会の参加者は 7 名、小原さんの自宅が会場です。当日は私の連載に対する感想をいろいろと聞くことができました。そのなかで、もっとも印象深かったのは、私の連載の 2 回目に掲載した小原さんの詩を小原さんが朗読してくれたことです。地域で女性を示す「おなご」という言葉を使い続け、女性の問題にこだわってきた小原さんは、1990 年代に「慰安婦」問題が大きく浮かびあがったとき、地域での戦争と「慰安婦」問題の接点を問うた詩「火焰の娘氷柱の娘」をつくります（小原麗子著／大門正克解説『自分の生を編む』日本経済評論社、2012 年）。小原さんの朗読は、芯のある力強いものであり、これを聞いただけでも参加した意義があったと思えるものでした。

麗ら舎読書会という営みの場

麗ら舎読書会の真ん中には小原さんがいますが、先生と参加者のような関係ではなく、会員は自由に意見を述べます。2022 年 9 月の例会の案内をいただ

いたとき、399 回とあったのでびっくりしました。毎月 1 回の読書会が通算 40 年、400 回、地域で続いてきたからです。いつ参加しても気持ちのいい場所、それが麗ら舎読書会です。なぜ、そのような読書会が長年にわたり続いているのでしょうか。

麗ら舎読書会では、読む、学ぶ、話し合う、書くことを通じてつながりがつくられています。書くことについて小原さんは、姉のように戦時中に国に詫びて死ぬことのないように、「自分の人生は、自分で編む」ために書くのだと述べています（小原麗子「麗ら舎・十周年のつどい」、前掲『自分の生を編む』所収）。本を読み、書くための自由な場を地域で確保すること、違和感を手放さないこと、そこに麗ら舎のモットーがあります。と同時に、まなじりを決することなく続けることも麗ら舎の大事な精神です。会員の皆さんは、お菓子や漬物を持ちより、声に出して本を読んで読書会を共有します。年に何回かの行事のあとには、必ず全員で「駄句」をつくって楽しめます。たくさんの笑いがあります。そこに風通しのよさがうまれます。

くらしのなかの場所であるとともに、くらしの外とつながる特別な場所、それが麗ら舎です。麗ら舎読書会の 40 年は、くらしのなかで、ひとりひとりをふまえたつながりをつくるために大事なことは何か、そのことにいくつもの示唆を与えてくれます。





モノから学ぶ歴史（子どもたちと学んだ世界地理の実践から）

⑧ 黒いダイヤと自動車時代～ゴムプランテーション～

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）



20世紀アメリカの自動車産業、現代の大量生産・大量消費時代を陰で支えた天然ゴム（ラテックス）の強烈な匂いから授業が始まる。

◆ 白い液体（ラテックス）

袋に入れて隠したラテックスの臭いを嗅がせると「うえっ!」「くせっ!」っと教室は大騒ぎ。どんな臭い? 「ごみの腐った臭い」「硫黄の臭い」「アンモニア」と臭いから本質に迫る（ラテックスには、実際にアンモニアと硫黄が入っている）。

ラテックスを手にとらせ空気に触れると、次第に弾力性が出て伸び縮みする。「ゴムだ!」。身の回りのゴム製品は? と問うと、「輪ゴム」「ゴム手袋」「風船」「ベルト」「ボール」から「タイヤ」まで数多くのゴム製品が挙がる。そして、ゴムなしでは私たちの暮らしは成り立たない事に気づく。

◆ マレーシアのゴム園プランテーション

次にゴム園の写真を見せ、「木がきちんと並んでいる」ことから人工林だと気付かせる。ここは、マレーシアのゴム農園。労働者たちは、夜明け前から1本1本のゴムの木を傷つけてカップを付ける。数時間後カップに白い樹液が溜まる。

1人1日500本の木から回収。集めた樹液は凝固しないようにアンモニアを混ぜ、処理場に運ぶ。硫黄などを入れ140度に熱すると粘性と弾力性のある天然ゴム（ラテックス）が完成する。だからラテックスは、あの強烈な臭いなのだ。



マレーシアのゴム園と流れ出した樹液

◆ ゴムの木の原産地アマゾン

ゴムの木は、マレーシアではなくアマゾンが原産地だ。コロンブスが西欧に伝えたという。当初ゴムは、その伸縮性・防水性を生かしてレインコートやズボン吊りなどに使われて



アマゾン原生のゴムの木
（撮影：若木久造）

いたが、1839年に大きな転機が訪れた。天然ゴムに硫黄を加え加熱すると弾性が格段に向上することが発見されたのだ。

その後、アマゾンの天然ゴム価格は高騰し、天然ゴムの大ブームにより「黒いダイヤ」と呼ばれるほどとなった。そこでイギリスは、天然ゴムの種をこっそりと持ち帰り、ロンドンのキュー植物園で栽培法を研究した。結果、植民地の東南アジア各地に天然ゴムの大農園（プランテーション）が作られた。こうして、ゴム園の経営者はイギリス人で、働くのは、植民地の貧しい労働者となった。

◆ T型フォード

最後に、天然ゴムの生産量の変化を示すグラフを提示。20世紀になり天然ゴムの生産量が急速に増えているが、なぜか? と問う。「自動車のタイヤ?」。そう、その頃のアメリカでは、フォードがベルトコンベア=システムを開発し、T型フォードの大量生産が始まった。自動車に不可欠なタイヤは天然ゴムを使わないとその性能を発揮できない。現在天然ゴムの90%以上が自動車タイヤとして利用される。

大量生産・大量消費の現代社会の始まりは、天然ゴムの発見と生産がきっかけとも言える。





アジア太平洋戦争への思い その7

マレー半島に残る日本軍の慰安所

高嶋 道（元中学高校教員）

「東南アジアに戦争の傷跡を訪ねる旅」を続けている私たちは、マレー半島とシンガポールに日本軍が設置した各地の慰安所跡もたどっています。日本軍が接收して慰安所とした建物は、まだ各地に残っていて、人々に語り継がれています。突然犠牲を背負わされた女性とその家族、そして住民にとっての忌まわしく悲しく重い体験は消えていません。

慰安所開設を住民に強要した日本軍

今回は、1992年に李玉璇さん（当時81歳）の証言で、明らかになったマレーシアのネグリセンビラン州クアラピラに設置された慰安所についてお伝えします。1942年3月ここに日本軍の兵士約90名が駐屯して以来、若い女性への暴行事件が頻発するようになりました。当時日本軍は、住民に「治安維持会」を組織させていました。李さんはその副会長だったので、中隊長に女性の保護を申し入れました。彼は女性の安全を保障する代わりに慰安婦の差し出しを強要したのです。何となくことでしょうか。李さんたちはどれほど怒り、悩んだことでしょう。やむを得ず、慰安所の設置を受け入れざるをえませんでした。しかも、慰安婦への給与は治安維持会が負担する条件だったのです。

李さんは、やっとの思いで30～40歳の地元女性を選びましたが、軍側は、若い女性でないとの理由で拒否したのです。李さんは、クアラルンプールに向いてダンスホールなどで働く若い女性たちに協力を依頼しました。家族の同意を取り付けて、18～27歳の華人女性23人をクアラピラに連れてきたので



クアラピラの慰安所。部屋数が多い。2012年に取り壊された。

す。18人は、日本軍がサルタン（この地域の支配者）の邸宅（写真：左下）を接收して設置した慰安所に、5人は市街地の将校用の「招待所」に配置されました。慰安婦を引き受けて耐えてくれた女性たちに、治安維持会は住民からの寄付金などを集め、一人あたり毎月300ドルの軍票（日本軍が発行した紙幣で当時の通貨。教科書p.228）が支払われました。武力で威嚇して慰安所をつくらせ、女性を弄んだ日本軍を、人びとは「アジアを欧米の植民地から解放する」と考えたのでしょうか。

確認の発端となった『陣中日誌』の記録

『陣中日誌』は、日本陸軍が部隊毎に日々の作戦命令や行動などの記録を義務づけた重要な公文書です。敗戦後はほぼ処分されてしまいました。ところが、この地域を支配した歩兵第11聯隊第7中隊の『陣中日誌』が、1987年林博史氏（当時・関東学院大学助教授）によって防衛庁研修所の図書館から発見されたのです。それまでに高嶋伸欣が証言を集め、踏査していた各地の住民虐殺事件についても、照合ができた貴重な史料になりました。

1992年、高嶋はこの陣中日誌の「1942年4月3日（金曜日）於クアラピラ」「本日ヨリ慰安所開設セルヲ以テ午後一時ニ休養セシム」の記録に気づきました。これを手がかりに現地の慰安所について調べるために地元の新聞記者などに協力を求めました。やがて証言者が現れ、上記の事実が明らかになったのです。そして神戸新聞社シンガポール支局の門野隆弘記者によって報道（1992.3.22）され、大きな波紋を呼びました。当時「慰安所設置は民間業者であって、政府・日本軍は直接関与せず」との主張がなされていたからです。



ジョホールバルの慰安所。サルタンの大邸宅を接收、今は博物館。



バトンをつなぐ中学生

第2回 選挙を経験し責任と希望を語る子どもたち

平井 敦子（北海道公立中学校教員）

国権の最高機関「国会」

「えーっ、すごい」と画面を見入る生徒たち。昨年の衆院選で地元の小選挙区から当選した議員の活躍ぶりを、衆議院のインターネット中継ライブラリから紹介しました。そこでこの3月に卒業した先輩が送った手紙を議員が読み上げ、岸田首相に問いただした場面が登場したのです。非正規労働の特に女性の低賃金問題についてです。首相はできるだけ早く（いろいろ条件なども前置きしつつ歯切れは悪いけど、結論としては）賃金アップすると答弁していました。

国会議員は、主権者国民の代表だからね、選挙で当選して国会に出たからには、こうやって自分に託された国民の声を届け、少しでも生活が良くなるように政府を動かすのが仕事なんです。そう説明すると、生徒は大きく頷いていました。

模擬選挙を通して

この7月には、彼らは参院選の模擬選挙を経験しています。

「政策を調べて、最初はこんなにたくさんの考えの中から1つしか選ぶことができないのは大変だと思っていました。でも学習を進めていくうちに、自分の将来には何が大事なのか、どんな将来がいいのかを課題にすると、調べることも選ぶことも楽しくなっていました。それと同時に候補者の方々の顔や噂、評判などで決めるものではなく、その人の取り組みはどんな北海道、どんな日本にしていきたいかの、政策を重視することが本当に大切だと改めて感じました。」

「自分で調べて書いていくその時間は自分に大きな変化を与えてくれました。どうすれば社会が良くなるかという正解はなくて、未来はわからない。でも悩みながら選択する責任を感じました。そして自分で選挙会場へ行き投票したこと、おそらくこの影響が私には一番大きいです。まだ選挙は関係ない

と思っていました。でもいざ自分で投票することで実感が湧いて、18歳になって選挙会場へ行って投票するのがすごく楽しみになりました。自分の気持ちがこんなにも変わって、すごく嬉しいです。若い人たちの投票率がもっと上がっていくように、自分たちの代から頑張っていきたいと思うので、選挙を多くの人に知ってもらって一緒に投票しに行けたらいいなと思いました。そして自分に子どもができたときに選挙に興味を持って欲しいなとも思いました。」

自分の中で、大きく変化し成長を感じた彼ら。しかし、せっかく関心をもったはずの政治が、夏以降は安倍晋三氏の「国葬」の話題や旧統一教会と大臣や議員の関係の話題ばかりが目につく有り様。しかしそれで政治にうんざり気分になれば、気分だけをコントロールするポピュリズムにもってかれるという、歴史の教訓がある。負けてたまるか！です。

頑張れ国会議員

「さて、参院選でみんなが当選させた議員はどうしているかな？」という「はい、調べます！」と、参院のネットライブラリで議員氏名検索をかけ発言探しを楽しそうにはじめました。これから育つ有権者は、なめてたらおっかないぞ、と議員に教えてあげたいものです。



その後、模擬裁判も行なった。

連載⑩ 「最初の質問」

黒田 貴子（中学校講師）

国語科の同僚が、長田弘さんの詩集から「最初の質問」を3年生に紹介しました。そして、「もし、できたら、でよいので、答えを書いた人は教えてね」と言ったところ、答えを書いてきた生徒たちがいました。コロナ禍が起きる前のことです。

問いは、こんな風に始まります

今日あなたは空を見上げましたか。空は遠かったですか。近かったですか…（略）…いちばんしたいことは何ですか。人生の材料は何だと思いますか。あなたにとって、あるいはあなたの知らない人々にとって、幸福って何だと思いますか。時代は言葉をないがしろにしている—あなたは言葉を信じていますか。

ひとりの少年の答えです

Q空は遠かったですか。

A遠かった。ちょうど学校の上を飛ぶ飛行機がとても小さく見えた。

Q「ありがとう」という言葉を、今日あなたは口にしましたか。

Aいいえ。考えてみると、簡単な言葉だけれど、なかなか言っていないと気づいた。

Q街路樹の木の名を知っていますか。

Aブラタナス、イチョウ、カエデ、ポプラ、サクラ、シダレヤナギなど。

Qこの前、川を見つめたのはいつでしたか。

A長瀬に行ったとき。

Q「美しい」とあなたがためらわずに言えるものは何ですか。

A自然です。昨年の移動教室で行った長野の自然。

Q何歳の自分が好きですか。

A幼稚園から小学校低学年の頃。勉強もせず、遊ぶことしか頭になかった時代。

Q世界という言葉で、まず思い描く風景はどんな風景ですか。

Aアフリカや中東など。特に難民問題や貧困問題が多い地球の様子を思い描いてしまいます。

Q問いと答えと、今あなたにとって必要なのはどちらですか。

A答えです。この数々の質問に、自分の答えというものがなかなか見つからない…。

Q人生の材料は何だと思いますか。

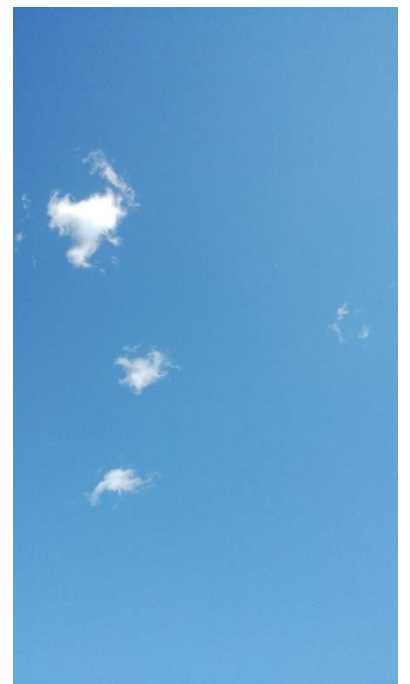
A面白さ。何も楽しいことが起こらなかつたら、自分の人生は成り立たないと思います。毎日少しでも笑うことが出来れば、人生の材料になると思います。

Q時代は言葉をないがしろにしている…あなたは言葉を信じていますか。

Aあまり信じていません。この世の中には、聞いただけではわからないような略語などがあふれかえっているからです。また、嘘の言葉も多く流れているためです。

この子たちの未来のために

この繊細で透明な、しっかりとした言葉からは、彼が抱えている未来への希望が感じられます。彼がはばたいていく社会が、けっして悪意に満ちた、みにくいものであってはいけな、そして、それは、おとなの責任なのだと。





つどいの樹を読んで

つどいの樹を楽しく読んでいます。学び舎の教科書でどのように学んでいるか、現場の中学校で、大学生の模擬授業づくりで、市民の皆さんが歴史教科書カフェとしてなど、幅広く利用されている様子がわかります。さらに「太字がないので何を教えたのか教師各自が考える」「資料読み取りのための発問力が鍛えられる」「読んで、えっ？何？どういうこと？」と疑問を抱かせる「しかけ“が資料にある”など、皆さんがおっしゃるように他の教科書にはない魅力がいっぱい詰まった教科書だと思います。

さてつどいの樹についてですが、8号（2022.6.1発行）の表紙の「戦禍をくぐり抜けた『青い目の人形』という不破さんの記事に目が留まりました。

アメリカの子ども達から日本の子ども達に送られた12739体の友情の人形が、1941年からの「鬼畜米英」によって敵愾心を育む標的となった。その後、1989年1体がみつきり学校の宝物にされたという内容です。

千葉県には218体が配布されたが、現在10体が見つかっています。その内の1体ナンシーメリーちゃんが佐倉幼稚園の園長室に保管されており、私は見せていただいたことがあります。園長先生は「入園式や卒園式には壇上に飾り、子ども達に平和の大切さを伝えたい」と言っていました。平和のための戦争展で、紙芝居を上演したこともあります。人形が焼かれた場面で、子ども達は「うわ〜かわいそう」と声を出していました。送られた人形は日本のみではなく、当時の植民地にも送られています。発達段階に応じて教材に生かせるのではないかと思います。（小林 光代）

ほっと一息つかせてくれた「授業づくりの土おこし」のコーナー

会報『つどいの樹』を創刊号から第9号まで、目を通してみた。錚々たるメンバーが執筆していて、興味深く、読み応えのある会報という印象である。カラー版で随所に写真が入っているのも親しみやすい。特に、表紙の大判の写真はインパクトがある。キリマンジャロ山（創刊号）、『白バラ』のモニュメント（第3号）、遊牧民の家族（第4号）、スリ・ジャナタ小学校（第6号）など、撮影者は、さすが社会科教師だなと思わせるような場所である。また、キャプションが内容も分量も良い。

ところで、「読み応えがある」というのは、やや重い内容でもあるということだ。そんな中で、一服の清涼剤のように感じたのが、「授業づくりの土おこし」のコーナーだ。「モノから学ぶ歴史」として、ジャガイモ、ヤギ（の糞）、コーヒー、ヒツジ、カレーライスなど、子どもにとって身近なモノを取り上げて、その説明と共に授業での子どもたちの様子が書いてあるところがうれしい。読んでいてほっこりするのである。

「沙漠の遊牧民は、何を燃料に料理するか？」では、沙漠の砂を配り、手で触らせたり、動物園でもらった乾燥したヤギの糞にライターで火をつけてみせたりと、子どもの実感を大切に授業展開の様子が紹介されている。「カレーライスはインド料理ではない！？」では、子どもたちの「カレーライスはインド料理」という「常識」をひっくり返した授業の様子が紹介されている。

筆者の瀬戸口信一氏は元中学校教師だったそうだ。中学の授業は「モノ」で終わってはいけないうろが、「モノ」を出発点にした授業は魅力的である。このような連載を続けてほしいものである。（木村 誠）

2022年11月発売

『ともに学ぶ人間の歴史』授業ブックレット No.13



- 女帝から母へ
—女性と政治・社会— ● 服藤 早苗
- 北条政子とはどんな人ですか？
—北条政子についてのQ&A— ● 野村 育世
- 鎌倉時代の墓からわかること ● 千葉 保
- 2022年の子どもたちは
「あたらしい憲法のはなし」をどう読んだか？ ● 関 誠

ご注文は学び舎へ

電話：042-512-5960

E-mail: manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp



学ぶ会からのお知らせ



●学ぶ会全体会と学び舎教科書セミナーが行われました。

一般社団法人「学ぶ会」第12回全体会を9月18日にオンラインで行いました。ご参加くださった方々ありがとうございました。事業報告の後、2つの市民学習会から活動報告がありました。参加者は24名。午後は学び舎教科書セミナーを開き、二つの採択校からの授業実践報告が行われました。参加者は35名。午前午後ともに皆さまからアンケートにご回答いただきました。お寄せいただいた感想などは同封した別刷り「全体会特集号」をご覧ください。

◆A2会費未納の方にもう一度振込用紙を同封しました。

A2のコースの会員で、まだ第13期の会費(3000円)の納入がお済みでない方に再度振込用紙を同封しました。お手続きをよろしくお願いいたします。ゆうちょダイレクトも使えます。なおこの間に行き違いがあった場合はご容赦ください。

■会員をお誘いする活動にお力をお貸しください。

学ぶ会は、一般社団法人「学ぶ会」会員のみなさまの会費をもとにして学び舎歴史教科書を発行しています。今後も教科書発行を継続していくためには、より多くの会員のみなさまのお力が必要となります。この会報が届く12月1日から「会員を増やすキャンペーン」を行います。お力添えを心よりお願いします。詳しくは、事務局だよりをご覧ください。

◆コアアドバイザーの先生方が著書発刊、テレビ出演。

昨年の全体会で講演をされた大日方純夫さんの『唱歌「蛍の光」と帝国日本』(吉川弘文館)が発刊されました。卒業式の歌として定番だった「蛍の光」には3番、4番もあった。「千島の奥も沖縄も」で始まる4番は、やがて書き換えられていく。謎解きのおもしろさが味わえます。また、宮瀧交二さんは、9月9日NHK「チョコちゃんに叱られる」に出演されました。「なんで座布団の隅っこに房があるの?」という問いをみごとに解明。事務局のメンバーはボーッとされていてチョコちゃんに叱られました。

▲市民学習会の学びを雑誌で紹介しました。

『歴史評論』の2022年11月号は、「生涯学習のなかの歴史学」を特集しています。事務局の鳥塚義和さんが「学び舎歴史教科書で学ぶ市民学習会」という論考で、西宮・板橋・浦安・府中の4つの市民学習会をとりあげ、教室での子どもの学びと市民の学びの違いを論じています。論文の抜き刷りを希望される方にお送りします。事務局までご連絡ください。

★授業ブックレット第13号を11月下旬に発売しました。

内容は11ページをご覧ください。第1号からバックナンバーをそろえて販売しています。ご希望の方は学び舎(manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp)までご連絡ください。



一般社団法人	子どもと学ぶ歴史教科書の会(略称「学ぶ会」)
事務所住所	〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605
メールアドレス	manabukai@mbm.nifty.com
ホームページ	http://www.manabisha.com
編集・発行	一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会